

第1回 八代市定住自立圏共生ビジョン懇談会委員からの意見対応表

平成27年10月28日【資料1】

	委員からの意見・提案等	意見等への回答・対応案
1	P16「やつしろTOMATOフェスタ事業」の関係団体に「八代市商工会」を追記してほしい。	P16「やつしろTOMATOフェスタ事業」の関係団体欄に「八代市商工会」及び「氷川町商工会」を追記。
2	P24「ウ 交流・移住促進」の分野において、移住促進についての事業がない。「空き家対策」や国の「ふるさと創生」事業を利用した事業なども必要ではないか。	移住促進に関する事業として、P24に「地元体験型プログラム作成事業」を掲載しており、取組内容の中に「地域資源（空き家や耕作放棄地などを含む）」を追記し、空き家の利活用などを図っていききたい。 また、P4圏域の将来像（2）「②交流・移住の促進」に「受入体制の整備を進める」を追記し、移住者の受入れ体制の強化や「空き家バンク」の運用と登録物件状況を見ながら、連携できる取組を検討していききたい。
3	社会福祉協議会では地域福祉において障がい者でも高齢者でも安心して地域で活動できるなどの見守り体制を実施している。ビジョン（素案）は障がい者を対象とした事業が多い。年齢を重ねても安心して暮らしていけることが福祉の課題である。 ※高齢者の視点も大事にしてほしいとの意見	高齢者が住みなれた地域で安心して暮らし続けることができるよう「地域包括ケアシステム」の構築に向け取り組んでおり、八代圏域での取り組みとして「在宅医療・介護連携事業」を掲載したところである。高齢者が引き続き、住みなれた地域で安心して暮らし続けることができるよう、取り組んでいきたい。
4	地域福祉において5カ年の計画書を行政と一緒に行動計画として作成している。氷川町からも負担金がある。計画書との整合性を図って欲しい。	市、町において社会福祉協議会と「地域福祉計画」を策定している。また、社会福祉協議会で「活動計画」を策定されている。基本的な考え方の整合性は図られているため、両計画において、連携できるものについては検討していききたい。
5	P6「在宅医療・介護の連携事業」は、現在、市・町・医師会・郡医師会の4者で実施している。「市町一緒」での表記をお願いしたい。※懇談会配布資料	「市町一緒」へ訂正する。※第1回懇談会配布資料の訂正
6	P5「救急医療体制充実化事業」は、事業費の見込みが減額しているので説明がほしい。	平成27年度事業費に、歯科施設整備関係の補助（224万円）が加算されており、平成28年度以降が通常の事業費である。
7	「就学指導委員会」について 小学校入学時等に何らかの障がいを持つ児童に対しての適正指導を行う指導委員会が開催されている。郡医師会には精神科の医師が居ないので、市医師会から派遣してもらっている。今後市と町で一緒に指導委員会を開催してもらい、郡と市の医師会の専門分野のドクターを派遣するなどの取組ができないうか。	就学指導委員会は、特別支援学級設置の必要性や子どもの特別支援学級在籍の必要性について協議する場であり、協議件数が年々増加傾向にある。就学指導委員会の審議については、自治体の地域特性を考慮する必要があるため、それぞれの自治体で行うのが望ましいと考える。
8	医療関係のネットワークは、県、県医師会と大学とで「地域医療ネットワーク」の構想が始まっている。今年度には、労災病院にシステムが入ってくる。将来的には八代医療圏域でネットワークが結べる構想となっているので、医療・福祉関係で始まりつつある。公的病院を拠点に圏域内の医療機関にネットワークを結ぶよう県でも始まっている。情報は医師会から提供を行っていく。	行政には情報があまり入っていない状況である。現在は医療分野が中心だが、将来的には介護分野でのネットワーク化も期待される。
9	P5「救急医療体制充実化事業」は、年末年始の受入体制が取り組みに入っているのか確認したい。	本取組には、年末年始の受入体制も組み込まれている。
10	P21「八代地域イントラネット運用事業」に、災害時のコーディネータなどの情報も絡めて事業の発展ができないか。	インターネット上に八代地域の広域的な情報を発信する場合の情報基盤として、ウェブサーバ等を活用することは可能ではあるが、行政の災害情報発信媒体としては、不向きかと考えており、県の防災情報システム、市のHP、緊急情報配信システム等の既存システムの活用を、より図っていききたい。
11	P22「生活交通確保維持事業」では高齢者の通院が困難だと聞く。主要な病院をバスが回れるルートなど、構想はないのか。	高齢者の外出支援については、民間のデイサービス事業所などにおける、ボランティア送迎をはじめ、市においては、山間部在住の高齢者に対し、タクシー利用料金の一部補助なども実施している。また、昨年度策定した「八代市地域公共交通網形成計画」を踏まえ、利用者の利便性向上や交通不便地域の解消等に取り組んでいきたい。
12	福祉は、子ども、高齢者以外にも難病など、幅が広い。今後必要なのは、ネットワークづくりである。サービスがない地域へのカバー、山間部や過疎地域などの交通などを含めた社会支援が課題である。	障がい者や難病患者等については、福祉や医療、雇用など関係機関による「障がい者支援協議会」のネットワークをつくり、各専門部会において、移動系サービスの普及のための取組など、障害福祉サービスの充実に努めているところである。山間部等サービスのない地域への対応を含め、今後も「障がい者支援協議会」において、国の障害福祉サービスの活用による取組を進めていく。 また、社会全体のネットワークづくりについても、関係部署・機関と連携し検討していく必要があると考える。
13	学校現場での課題として、家庭と地域が連携する視点やこどもの健全育成がある。記載の事業に加えて、家庭教育への支援が大事。	生涯学習の視点に立って家庭教育の充実を目指し、保育所、幼稚園、学校に家庭教育学級(平成26年度45学級、参加者総数14,222人)を開設し、家庭教育の支援を実施している。 また、市PTA連絡協議会と連携を図るとともに、PTAが主体となって課題の解決や事業実施が行えるよう支援を行っている。 ご意見を受け、家庭教育への支援が重要との認識の下、P3圏域の将来像の「②教育・文化」の内容を修正しており、引き続き、家庭教育学級の充実及びPTA活動への協力支援を行っていく。

第1回 八代市定住自立圏共生ビジョン懇談会委員からの意見対応表

平成27年10月28日【資料1】

	委員からの意見・提案等	意見等への回答・対応案
14	P10「八代市立特別支援学校教育事務委託事業」は、県内でも唯一運営されており感謝している。学校現場では特別支援を必要とする子ども達が増えており学校への支援や通常学級における発達障がいの子どもの増加への支援などの視点を検討が考えられる。	特別支援学校のセンター的機能を活用し、教育相談や学校訪問等を行い八代地域の特別支援教育を充実させている。今後も、八代地域の特別支援教育の充実に努めていきたい。
15	広域行政事務組合は発足40年、大量退職が問題であり人材育成が課題。最大の課題は、若手職員が増加し、スキル等を引き継ぐことが大事。	行政・消防への再任用職員等を活用することにより、スキル等の引継が期待できると考える。
16	消防団員の確保ができてはいるが、災害時に出てこれる状況にない団員がおり課題である。	現在、2500名の定員に対して2396名（平成27年度4月）を確保。仕事の都合で出勤が困難な消防団員も増えているが、定員を満たす消防団員の確保が急務である。引き続き、消防団員の確保に努め、緊急時の出勤などについても体制を整えていきたい。
17	P17「八代広域行政事務組合事業」記載の事業費は市、町の負担金の合算額か。	事業費については、市、町負担金額を含め、総事業費を記載する予定。
18	消防施設の併用（分署、支所施設の共有化） ・施設の有効活用及び消防職員と本部団員の連携強化を図る。	将来的には分署施設老朽化に伴う建替え時などで検討は考えられる。
19	コミュニティ研修施設（公民館等）の併設（分署と隣接） ・分署機能と併せコミュニティセンター等（備蓄倉庫や公民館等）を設置。	将来的には分署施設老朽化に伴う建替え時などで検討は考えられる。
20	大規模災害時における避難場所の併用（学校、廃校施設の利活用） ・廃校施設については、施設の維持管理が課題となるが、有効活用となる。	地域の公共施設の配置状況等により、施設管理者と協議をしながら、指定避難所を定めており、その中に廃校施設も含まれている。今後も、地域の必要性に応じ、施設の利活用を検討していきたい。
21	医療機関との救急ワークステーション体制（医療機関との連携強化） ・消防署待機からの救急出場ではなく、病院からの出場とし、救急ドクターの同乗や病院スタッフとの連携強化に伴い、事後検証を含んだ高度な知識技術を習得することにより、救急隊員の育成強化が図られる。	広域消防と医療については、八代地域と圏域が同じであるため、広域消防と医療機関での調整は可能ではないかと考える。
22	P17「八代広域行政事務組合事業」の取組内容に、火災時の対応や救助活動などを追記してほしい。	他のご意見（No.15～21）を含めたところで、P3圏域の将来像、「④住民の生活環境」の内容を修正した。
23	P13「国営造成施設管理体制整備促進事業」は、一般的にはあまり知られていない事業。農業施設の機能などは、消防団と協定を結び、防火用施設的な利用もあっている。	P3圏域の将来像「③土地利用・産業振興」や「④住民の生活環境」に合致する取組みであり、引き続きご支援いただきたい。
24	JAは住みやすい地域づくりを目指している。行政と一緒にあって、八代に住んで良かったと言われる取組みを行いたい。介護事業も実施しており、食と健康と医療を取り込むことで自給率を上げていきたい。	P3圏域の将来像に広く合致する取組みであり、引き続きご支援いただきたい。
25	観光の取組みは形に残るものではないが、TOMATOフェスタ、スリーデーマーチなどのイベント時のみで連携する仕組みでなく、日頃からの市町の連携の取組みを行っていただきたい。	P25「八代地域観光推進協議会」において、セミナーやおもてなし講座の実施や、情報共有など、日頃から連携を図っている。将来的には、八代地域全体での観光推進に向けた体制づくりを念頭において取り組んでいきたい。
26	自分で運転できない方が増えており、交通手段の充実を考えていただきたい。	昨年度、公共交通の総合計画である「八代市地域公共交通網形成計画」を策定し、公共交通のあり方や今後の展開等を検討している状況である。この計画を踏まえ、利用者の利便性向上や交通不便地域の解消等に取り組んでいきたい。